

ほら、 このほんおもしろかったよ

ねん あきごう
2011年 秋号

読書活動推進標語

わくわく、どきどき。

だから、わたしは、ほんがすき

本はともだち



県っ子読書活動

『ほげちゃん』（えほん）

やぎたみこ／作 偕成社

ゆうちゃんのプレゼントとしてやってきたぬいぐるみのほげちゃん。

いつもゆうちゃんといっしょです。

でもきょうは、ゆうちゃんはおどくとおでかけ。ほげちゃんはおるすばんです。

つれていってもらえなかったほげちゃんは、

ゆるせない———！

とおこりだして…。

ほげちゃんは、なにをはじめたのかな？



『ぼくがきょうりゅうだったとき』（えほん）

まつおかたつひで／作・絵 ポプラ社

ぼくはかっこいいきょうりゅうパジャマをきて、こうえんへあそびにいった。けれどもみんなにこわがられて、ひとりぼっち。そのときなかまにいられたのは…。

たのしい、わくわくするおはなしです。



『ちいさなちいさなおんなのこ』（えほん）

フリス・クラフスキー／文 ニノ／絵 福音館書店



あるところに ちいさなちいさなおんなのこがいました。ばらのきよりも、だいどころのいすよりも、ちいさなちいさなおんなのこ。ところがあるひ、おんなのこは テーブルのうえの きんぎょばちに てがとどいたのです。おんなのこは すこしずつ おおきくなって…。

とうとう ちいさなちいさなあかちゃんのおねえさんになったのです。

『みず ちゃぽん』（えほん）

新井 洋行／さく 童心社

みずのつぶが つぎつぎにおちて
きて、

ぽと ぽた ぽしゃ。

どんどんいきおいよくなっていっ
て、さいごは

じょぼぼー！

みずがつぎつぎにかたちをかえて、
おどっているよ。おとやうごきがた
のしめ、みずのつめたさがつたわっ
てきそう。

あかちゃんのよみきかせにぴったりです。



『ふしぎなまちのかおさがし』（えほん）

阪東 勲／写真・文 岩崎書店



サムくんは、いぬのダックと“まちのかおさがし”にでかけました。どう
ろや ごみばこ、おみせ…まちには目
やはなや口が^{くち}ついた、かおにみえるも
のがいっぱいです。

あなたもこのえほんをみながら、じ
ぶんのまちの“かおさがし”をしてみ
ませんか？

『プルガサリ』（えほん）

キム・ジュン Chol / 再話 イ・ヒョンジン / 絵 岩崎書店

むかしむかし、山^{やま}おくにすむハルモニ（おばあさん）のあかから鉄^{てつ}をくうかいぶつプルガサリが生まれた。

プルガサリは村^{むら}中の鉄^{てつ}をみんなくってしまい、村人^{むらびと}たちは困^{こま}りはてた。

さて、このかいぶつ、どうやってた^いじできるのだろう。



『おとうさんの手』（よみもの）

まはら 三桃 / 作 講談社

わたしのおとうさんは目^めがみえない。けれどおとうさんの手^てには目がついているのかとおもうほどいろんなことがわかっている。

みえないものをかんじとる大切^{たいせつ}さをおしえてくれる一冊^{いっさつ}です。



『土手をかけおりよう！』（よみもの）

あんずゆき / 作 文研出版

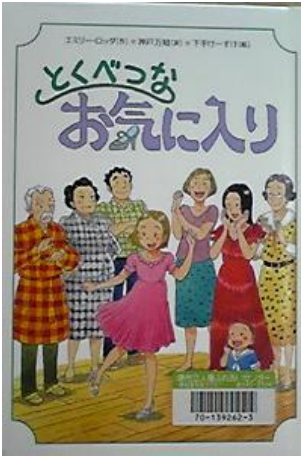
「ララが死^しんだのはわたしのせい。」

真希^{まき}は愛犬^{あいけん}ララの死^{せき}に責任^{せきにん}を感じて、自分^{じぶん}を責め^せる毎日^{まいにち}を過^すごしていた。ある日真希はララが死^しんだかわ^{かわ}らでサヨさんに出^で会^あう。サヨさんはカヤネズミの研^{けん}究^{きゅう}をしていた。カヤネズミに夢中^{むちゅう}になるうち、真希^{まき}の心^{こころ}に変^{へん}化^かが起^おこり始^{はじ}めた。



『とくべつなお気に入り』（よみもの）

エミリー・ロッタ／作 岩崎書店



ケイトのお母^{かあ}さんがバザーで中古服^{ちゅうこうふく}のお店^{みせ}を出すことになりました。集められたたくさんの服^{なか}の中から、元の持ち主^{もとのもぬし}たちが次々と現^あれました。どの服もかつての持ち主^{つぎつぎ}たちの“とくべつなお気^きに入^いりだったのだったのです。

バザーの当日^{とうじつ}、服はふさわしい持ち主^かに買^かわれていきます。

『きみに出会うとき』（よみもの）

レベッカ・ステッド／作 東京創元社

ママが三年間^{さんねんかん}応募^{おうぼ}し続^{つづ}けたピラミッドクイズ^{ピラミッドクイズ}に当選^{とうせん}した。

“あなた”がわたしに送^{おく}ってくれた未来^{みらい}を予言^{よげん}するメモは、すべて本当^{ほんとう}のことになった。今度^{こんど}はわたしの世界^{せかい}から“あなた”に手紙^{てがみ}を送^{おく}る番^{ばん}だ。“あなた”がわたしの世界^{せかい}での使命^{しめい}をはたすために。



『月のかかく』（446）

えびなみつる／絵と文 中西 昭雄／写真 旬報社

よぞら ひか つき
夜空に光っている月のこ
とをどのくらい知っていま
すか？月にはクレーターだ
けではなくて山も海もあっ
て、ちゃんと名前がついて
います。東に上ったばかり
の月が大きく見えるのをは
なぜだと思えますか？



この本は、月のことをわかりやすく楽しく知ることができます。

『さがりばな』（479）

横塚 眞己人／作 講談社



さがりばな。それは沖縄西表島で見る
ことのできるまぼろしの花。白色、薄ピ
ンク色、ピンク色の美しい花があまいか
おりを放ちながら夕方にさきはじめ、次
の朝には落ちてしまいます。たった一夜
だけのはかない花の命。でもそれは永遠
につづく命のはじまりでもあるのです。

『ゴミにすむ魚たち』(481)

大塚 幸彦／文・写真 講談社

海の^{うみ なか}中には、空^あき缶^{かん}や、車^{くるま}の
タイヤなど、いろいろなゴミがす
てられています。人^{にんげん}間のすてたゴ
ミをうま^{りよう}く利用^{りよう}している生きもの
がいれば、苦^{くる}しむ生きものもいま
す。

それでもゴミの中で、たくまし
く生きる生きものたちの^{すがた}姿^{すがた}を、
水^{すい}中^{ちゆう}カメラマンが教^{おし}えてくれます。



『イエローカードはぼくらの旗印』(783)

沢田 俊子／さく 京都新聞出版センター



脳^{のう}性^{せい}まひでずっと車^{くるま}いすのぼくが、ス
ポーツなんてできるわけがないと思^{おも}ってい
た。そんなぼくが^で出^あ会^{かい}ったのが電^{でん}動^{どう}車^{しや}いす
サッカ^あーだ^{かん}った。頭^{あたま}で考^{かん}え^がたようになか
なか体^{からだ}が動^{うご}いてくれないぼくにとっては、
とまどうことばかり。ぼくは初^{はじ}め^めて自^じ分^{ぶん}
以^い外^{がい}の障^{しょう}がい^{しょう}を持^もった人^{ひと}のことを考^{かん}えた。

仲^{なか}間^まと^{つう}の出^{しゅう}会^{かい}い^ぶを通^{せう}じ^じて勝^{せう}負^ふの世^せ界^{かい}に
挑^{いど}む、京^{きやう}都^との車^{しや}い^いすサッカ^さーチ^ちーム^むの美^{めい}話^わ
です。

ほかにもいろいろ

<えほん>

『カンガルーがいっぱい』

山西 ゲンイチ／作・絵 教育画劇

『パレエをおどるいぬなんていない?』

アッ・ケッ／文 サ・ガ・ル・イー／絵

ＢＬ出版

『きつね、きつね、きつねがとおる』

伊藤 遊／作 岡本 順／絵 ポプラ社

『これ、もっていき』

村上 しいこ／文 伊藤 秀男／絵 講談社

<よみもの>

『一年一組ミウの絵日記』

吉田 純子／作 市居 みか／絵 ＰＨＰ研究所

『ルルとブントサウルス』

ジュディ・ヴォースト／文 小学館

『ずっとまっていると』

大久保 雨咲／さく そうえん社

<ちしきのほん>

『めざしてみよう 計画の名人』(159)

斉藤洋とキッズ生活探検団／作 玉川大学出版部

『よくわかる岩石・鉱物図鑑』(458) 実業之日本社

『ぼくはアニマルトレーナー』(779) 宮沢 厚／著 ポプラ社



さかい し りつ と しょかん
堺 市 立 図 書 館

へいせい ねん がつはっこう
平成23年12月発行